



ISSN 0385-0838

第 112 号

発行所

亜細亜大学アジア研究所  
東京都武蔵野市境5-24-10

電話 0422 (54) 3111

郵便番号 180-8629

# 国軍将兵反乱で揺れるフィリピン情勢

野 沢 勝 美

七月二十七日の早朝、フィリピン・マニラ首都圏のビジネス街マカティで武装国軍将兵約三〇〇人がアロヨ大統領などの辞任を要求してシヨッピングモールと長期滞在者用ホテルのオークウツドを占拠する事件が発生した。反乱将兵は一九時間後に退去し事態は鎮静したが、事件は政治、経済的に深刻な打撃を残した。

## 背景に国軍上層部への不満

武力で政権転覆を図るという近年アジアでは例をみない事件の原因は何にあったのであるのか。当初計画では八月二日が決行日、二千人が参加し、うち五〇〇人が大統領府を奪取する計画であった。これが発覚、事件前日に大統領は若

手将校一〇人の逮捕命令を発令した。事件はこの命令に対する反乱と見られる。計画では一五人のメンバーからなる国家復興会議を樹立、その議長を国家元首とする計画であった。

事件の背景には国軍上層部の不正行為に対する国軍若手将校の不满があった。

近年、ミンダナオにおいては反政府イスラム組織のモロイスラム解放戦線(MILF)、武装犯罪集団のアブサヤフ討伐作戦が展開されている。反乱側は、国軍幹部がその際に、銃器、弾薬をMILFなどに横流ししたと糾弾した。また、今年三月のダバオ国際空港爆破事件、四月のダバオ港埠頭爆破事件に現役将校が関与したとした。反乱側はこの責任を追及し国軍最高司

## 目 次

国軍将兵反乱で揺れるフィリピン情勢	野沢 勝美	(1)
モンゴル・新世代経営者の活躍と農業の再生と輸入代替	西澤 正樹	(4)
台湾民進党政権の行方	劉 文甫	(8)
中国農村の医療制度	小林 照直	(10)
『アジアの窓』北朝鮮の核保有数は最低でも百十二個米シンクタンクの二〇一〇年予測	友田 錫	(12)

令官のアロヨ大統領、レイエス国防長官、コルプス国軍情報部長(准将)の辞任を要求した。実はこうした若手将兵の不满はアロヨ政権への不信と結びついている。アロヨ大統領は二〇〇一年一月のビープルパワー2においてエストラダ政権を崩壊させ、選挙の洗礼を受けずに政権の座についた。この結果、政変を主導した国軍上層部の意向を絶えず重視した。アロヨは上層部の不正に寛容とみた若手国軍将兵の不满が遂に噴出したと見るべきであろう。現に事件首謀者の一人トリリアネス大尉は、後述のフェリシアノ委員会において反乱グループが事件前の

七月一三日にアロヨ大統領に会い国軍上層部による不正を伝えたが、政権側は全く取り合わなかったと証言している。

### 過去七度の反乱事件はすべてに免責

フィリピンではこれまで七度のクーデタ未遂事件、施設占拠事件など国軍将兵の反乱事件が起こった。いずれもアキノ政権の下で発生し、反乱側は投降、または武装鎮圧された。なかでも、ホナサン大佐率いる国軍改革派はマルコス政権を崩壊させたとの自負の上に、民族主義感情に訴え、二度の本格的クーデタ事件（八・二八事件、一・二一事件）を主導した。ホナサンはその後上院議員に転出した。今回の反乱事件と比較できるのは、アキノ政権発足の直後の一九八六年七月に発生したマニラホテル占拠事件である。武装兵二〇〇人が高級ホテルに籠城した事件であった。しかしながら、この懲罰が腕立て伏せ三〇回であったことのみられる政権の対応の失敗は、その後のクーデタ未遂事件の引き金となった（次頁の表参照）。

アキノ大統領の後継者となったラモス大統領自身はマルコス政権時の国家警察軍司令官、アキノ政権下の参謀総長、国防長官を経験してきた。ラモス政権は国軍不満分子の抱き込みを画策し、一九九五年一〇月に政府は、それまでの反乱劇の主役であった国軍改革派、マルコス支持の旧体制派などと和解協定を結び、過去の反乱事件関与者に免責を与えた。この和解協定でクーデタ事件はすべて帳消しになり今後なくなるはずであった。ところがまたしても国軍反乱

事件が発生してしまつたのである。

反乱事件の構造的要因は、政党政治の不在にある。政党政治は、政治信条、利益を同じくする集団から構成される政党が議会で他の政党と利害を調整する。政党政治の不在は政治家が直接に自らの基盤を外部の不特定集団にもとめ、不満分子を相手に人気取りを優先させる。今回事件をみて、①現政権はビ・ブルパワー、②エストラダ支持者は旧体制派勢力・最貧層、③ホナサンは国軍不満勢力、と各々が政治混乱を自らの政治的プレゼンス拡大の好機と捉えていた。

かくして、政権側、エストラダ支持派、ホナサン支持者、などの政治家による三つ巴の政争がここで展開された。政治混乱の真の原因はここにある。

### 巻き返し転じたアロヨ政権

アロヨ大統領は昨年、二〇〇二年七月の議会施政方針で「強い共和国」の実現を宣言した。その半年後の一二月末にアロヨは大統領選挙不出馬を表明した。政権の統治能力の機能衰退を見越したようにクーデタ計画が襲った。不意をつかれたアロヨ政権は、体制の危機に直面したのである。

今回アロヨの対応はアキノ政権期の失敗を踏まえ素早かった。事件直後に全土に反乱状態宣言を発令し、反乱將兵説得開始した。事件は当日深夜には収まり、真相究明目的で翌二八日に元最高裁陪席判事のフェリシアノを委員長とする独立調査委員会を発足させた。

また、政府は二八日にはエストラダ政権の官房副長官カルデナスを、自宅に反乱軍の腕章、旗、武器弾薬を保管していたとして逮捕した。八月二六日にはエストラダ夫人のルイサ・エヘルシート上院議員を反乱事件連座で告訴している。

これに先立つ八月四日にはホナサン上院議員を事件黒幕の一人と告訴している。前述の国家復興会議の予定議長にはホナサンの名前があつたからである。そして、八月一八日には起訴した反乱將兵三五六人の軍法会議が開始された。

反乱軍から実名で批判されたコルプス国軍情報部長は七月三〇日に、レイエス国防長官は八月二九日にそれぞれ辞任した。辞任の理由としてレイエス長官は、大統領にフリーハンドを与えるために挙げたが、これは大統領に集中する批判をかわず目的である。

レイエスは、前述のビブルパワーに際してはエストラダ政権の国軍参謀総長でありながら政権不支持を表明し、アロヨ政権成立の立役者となつた。コルプスはマルコス政権時に士官学校教官の大佐でありながら共産武装勢力の新人民軍に加わり、その後投降した。アキノ政権時に国軍に復帰し、アロヨ政権で現職に昇格した。反政府勢力の動向に熟知していると評価されたのである。そして今回、反乱側により、コルプスをダバオ港埠頭爆破事件で目撃したとの証言が登場した。両人が純朴な一部兵士の不信を招いたのもむべなるかなである。

### 政争に経済界・国民世論は厳しい評価

最初に述べたように反乱事件は一日で収束し、反乱状態宣言は八月一日に解除された。しかし事件は政争に火をつけた。

## 国軍将兵反乱事件 (1986 ~ 2003 年)

- 1986年7月6日 マニラホテル占拠事件  
マルコス派将兵約300人が参加。トレンチャーノ元外相が大統領代行就任を宣言。
- 1986年11月22日 旧国民議会占拠事件  
「国軍改革運動」将校とマルコス派政治家の共同謀議のみ。
- 1987年1月27 ~ 29日 民間テレビ局占拠事件  
マルコス派将兵約500人が参加。反乱軍兵士1人が死亡。首謀者はカンラス大佐(南部タガログ地方統合司令部情報将校)。
- 1987年4月18日 ポニファシオ陸軍基地占拠事件  
マルコス派将兵13人が参加。陸軍司令部の一部を占拠。反乱軍兵士1人が死亡。首謀者はリブラード軍曹(元大統領警備隊)。
- 1987年8月28日 国軍改革派将兵反乱事件(8・28事件)  
国軍改革派将兵約1,700人が参加。政府軍兵士19人、民間人22人の計53人が死亡。首謀者はホナサン大佐(当時)。
- 1989年12月1 ~ 7日 国軍改革派将兵反乱事件(12・1事件)  
国軍改革派将兵、マルコス派将兵など約2,000人が合同決起。軍人36人、民間人43人の計79人が死亡。首謀者はホナサン元中佐。
- 1990年10月4 ~ 6日 ミンダナオ将兵反乱事件  
国軍武装兵士200人がブツアン、ガガヤンデオ口の2市を占拠。首謀者はノブレ大佐。
- 2003年8月27日 オークウッド占拠事件  
国軍武装将兵300人が国軍上層部を批判、大統領、国防長官、国軍情報部長の辞任を要求し近代的商業地マカティで反乱。首謀者はトリリアネス大尉ら若手将校。

(筆者作成)

議会では、下院国防委員会、上院全員委員会が真相究明を目的とし、オークウッド占拠参加者の証人喚問を開始した。しかし議会運営はあらたな展開をした。アロヨ大統領の指導力が低下したとみた野党は政権批判を強めたのである。エストラダ政権下で国家警察長官を務め、上院議員に転出したラクソンによるアロヨ大統領の夫ホセミゲル弁護士に対する資金洗浄疑惑追及がそれである。二億ペソが偽名を使った同氏口座に隠されていると暴露したのである。根拠の乏しい大衆狙いの手法であったが、結果としてこれが連日メディアを騒がせた。

こうした野党による攻撃の背景には、二〇〇四年五月の次期大統領選挙を視野に入れた政治状況がある。野党側では、「フィリピン民主の闘い」と民族主義者連合との統合問題に関わる五人委員会が発足し協議が始まった。上院与党院内総務で人気女性議員のレガレダ女史が与党ラカスを脱会している。これで上院の勢力は、与党一人、野党一人と同数になった。また、ギンゴナ副大統領も与党を離脱した。政界再編が始動したとみるべきであろう。経済界の反応も厳しいものがあつた。フィリピン商工会議所主催のフィリピン経済人会議実行委員長であるリム氏は、アロヨは治安、産業インフラ開発、経済効率化で見るべき実績を残さなかつたと批判した。商工会議所は次回大統領選挙では、治安を優先させる候補を推薦することになると手厳しい見解を示した。

国民に政権への不信を抱かせたことは事実である。八 九月に実施の民間調査機関による世論調査では、反乱兵の不满には根拠ありとするものが回答者の五五%に達した。さらに同時期のアロヨ政権の実績評価に対する世論調査では、支持するが四一%と前月調査に比較して一〇ポイント下落した。これは大統領就任以来の最低値であつた。調査機関の分析ではラクソン上院議員の暴露演説が影響したとしている。

## アロヨが次期大統領選出馬を宣言

追詰められたアロヨは最後の反撃に出た。一〇月四日、二〇〇四年五月の大統領選挙への出馬を表明した。昨年一二月の不出馬宣言を撤回したのである。また、一〇月一七日にフェリシアノ委員会が最終調査報告書を提出した。事件はエストラダ前大統領を暫定復権させる計画であると断定したうえで、国軍改革には文民統制の断行が不可欠とした。しかし、同時に首謀者を除く反乱兵全員を釈放している。マニラホテル占拠事件と同様の対応である。

アロヨ大統領は国軍の既得権を廃し、改革断行に向け政治力をどう発揮するのか。アロヨはその後、国防長官を辞任したレイエスを無任所閣僚待遇のテロ対策大使に、またコルプス准将を国軍広報部長に任命した。地元紙はこれで国軍改革は遠のいたと冷やかに論評している。

「ワニを飼う者はワニに喰われる」はマルコス元大統領の言動であつた。またしてもフィリピンは政治的混迷を迎えるようである。

(のざわかつみ・国際関係学部教授)